

公開実用平成 4—56415

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平4-56415

⑪ Int. Cl.⁵A 45 D 33/16
33/26

識別記号

庁内整理番号

8206-3B
8206-3B

⑬ 公開 平成4年(1992)5月14日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 頁)

⑭ 考案の名称 筒型コンパクト容器

⑮ 実 願 平2-82672

⑯ 出 願 平2(1990)8月3日

⑰ 考 案 者	奥 田 剛 弘	静岡県静岡市弥生町648番地 ポーラ化成工業株式会社内
⑱ 考 案 者	金 沢 和 彦	東京都品川区西五反田2-2-3 株式会社ポーラ化粧品本舗店
⑲ 考 案 者	米 山 義 久	静岡県静岡市弥生町648番地 ポーラ化成工業株式会社内
⑳ 考 案 者	大 川 裕	東京都葛飾区西新小岩3丁目20番8号 株式会社葛飾プレス工業所内
㉑ 出 願 人	ポーラ化成工業株式会社	静岡県静岡市弥生町648番地
㉒ 出 願 人	株式会社カッシカ	東京都葛飾区西新小岩3丁目20番8号
㉓ 代 理 人	弁理士 佐藤 宗徳	外2名

明 細 書

1. 考案の名称

筒型コンパクト容器

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 一端に開口部を有し有底筒状に形成した外筒部を設け、この外筒部の側面部に窓部を形成し、この外筒部の内部に透明合成樹脂で形成した化粧料収容部を回動自在に内嵌し、この化粧料収容部は前記窓部に対応する部分を断面半円状に切欠するとともに、切欠した断面部分に化粧料収容凹部を形成する一方、前記開口部に回動自在に密嵌する把持部を設け、この把持部に化粧筆を取り付け、この化粧筆を前記化粧料収容部に挿抜自在に装着したことを特徴とする筒型コンパクト容器。

(2) 前記外筒部の一端側に、化粧料収容部の抜け止めのための抜け止め体を設け、この抜け止め体に、化粧料収容部に装着された化粧筆をガイドして把持部の回動角度を規制するガイド孔を設けたことを特徴とする請求項1記載の筒型コンパクト容器。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は筒型のコンパクト容器に関する。

〔従来の技術〕

従来より、筒型コンパクト容器としては、例えば 実開昭 60—103409 号公報に記載されているものが知られている。

これは第 8 図ないし第 11 図に示すように、両端を閉塞した外筒部 30 の側面部に窓部 31 を形成し、この外筒部 30 の内部に化粧料収容部 32 を回動自在に内嵌したものである。この化粧料収容部 32 は前記窓部 31 に対応する部分を断面半円状に切欠するとともに、切欠した断面部分 33 に化粧料収容凹部 34 を形成してある。

また、化粧料収容部 32 の側面には指掛け部 37 が形成されている。さらに、化粧料収容部 32 にはその長手方向に化粧筆 35 を装着する化粧筆装着孔 36 が設けられている。

使用に際して、まず、化粧料収容部 32 の収納時にあっては第 10 図に示すように化粧料収容部

3 2 を回 転 させ、化粧料収容部 3 2 が窓部 3 1 を塞ぐような位置とする。一方、使用時には第 1 1 図に示すように、化粧料収容部 3 2 を回 転 させ、化粧料収容凹部 3 4 が窓部 3 1 から露出するような位置とする。

化粧筆 3 5 は化粧料収容凹部 3 4 を窓部 3 1 から露出させた位置で、外筒部 3 0 の一端に設けられた取り出し孔 3 8 から取り出せるようになっている。

〔考案が解決しようとする課題〕

しかし、前記した従来のものにおいては、化粧料収容部の収納時には化粧料が見えないため、化粧料の色調等を確認する場合には、化粧料収容部 3 2 を回 転 させて化粧料を窓部 3 1 から露出させる必要がある。

また、化粧筆 3 5 は外筒部 3 0 の一端に設けられた取り出し孔 3 8 から取り出さなければならぬので容器を傾ける等の操作が必要となり使用感に欠けるという問題がある。

しかも、使用時にはまず、化粧料収容部 3 2 を

回転させて化粧料を窓部 3 1 から露出させた後、化粧筆 3 5 を取り出さなければならないので 2 度の手間が必要となる。また、化粧料 3 5 が化粧料収容部 3 2 内に装着される構造となっているため、本来化粧料が収納されるべき部分が収納部として使用され、化粧料収納容量が小さくなってしまうという問題がある。

さらに、化粧料収容部 3 2 の側面に指掛け部 3 7 が形成されているため、これが、外部のものに引っ掛かかり、化粧料収容部 3 2 が回転して化粧料が不用意に露出してしまふ虞れがある。

本考案は前記事項に鑑みてなされたもので、収納時でも内部の化粧料が視認できるとともに、不用意に化粧料が露出してしまふ虞れがなく、また、使用時には簡単な操作で化粧筆の露出と化粧筆の取り出しができ、併せて化粧料の収納容量も増大できるようにした筒型コンパクト容器を提供することを技術的課題とする。

〔課題を解決するための手段〕

本考案は前記技術的課題を解決するために、以

下のような構成とした。

即ち、第1構成例では、一端に開口部を有し有底筒状に形成した外筒部を設け、この外筒部の側面部に窓部を形成し、この外筒部の内部に透明合成樹脂で形成した化粧料収容部を回動自在に内嵌し、この化粧料収容部は前記窓部に対応する部分を断面半円状に切欠するとともに、切欠した断面部分に化粧料収容凹部を形成する一方、前記開口部に回動自在に密嵌する把持部を設け、この把持部に化粧筆を取り付け、この化粧筆を前記化粧料収容部に挿抜自在に装着する。

第2構成例では、第1構成例に加え、前記外筒部の一端側に、化粧料収容部の抜け止めのための抜け止め体を設け、この抜け止め体に、化粧料収容部に装着された化粧筆をガイドして把持部の回動角度を規制するガイド孔を設けた。

〔作用〕

化粧料収容部が透明合成樹脂製のため、収納時でも内部の化粧料が視認できる。使用時には把持部を回転させる簡単な操作で化粧料を露出させる

ことができ、この状態で把持部を引くだけで化粧筆を取り出すことができる。ここで、把持部を回転させない限り化粧料収容部が回転してしまうことはなく不用意に化粧料が露出してしまう虞はない。

また、化粧料収容部に化粧筆を収納するものではないため化粧料収容部全体を化粧料収納部として有効利用できる。

〔実施例〕

本考案の実施例を第1図ないし第7図に基づいて説明する。

＜第1実施例＞

第1実施例を第1図、第2図、第4図ないし第6図により説明する。

外筒部1はクロムメッキされた金属で形成され、その一端に開口部2を有し有底筒状に形成されている。この外筒部1の側面部には窓部3が形成されている。この窓部3は外筒部1の円周上で略160度の開口角度を有している。そして外筒部1の他端（底）側には係合孔20を有するスペーサ

2 1 が嵌合されている。

前記外筒部 1 の内部には透明合成樹脂で形成した化粧料収容部 4 が回動自在に内嵌されている。この化粧料収容部 4 の形状は第 2 図に示すように、円柱の一端面 4 a と他端面 4 b とを除いた残存部分を長手方向に断面半円状に切欠したものとなっている。この切欠部分は前記窓部 3 に対応する部分をなっており、断面部分に化粧料収容凹部 5 が形成されている。

この化粧料収容凹部 5 には固形の化粧料 K が充填されている。そして、前記一端面 4 a には孔部 4 c が穿設されており、前記他端面 4 b には前記係合孔 2 0 に回転自在に嵌合する凸部 4 d が形成されている。この化粧料収容部 4 が内嵌された外筒部 1 の開口部 2 には化粧料収容部 4 の抜けを防止するための抜け止め体 8 が内嵌されている。

一方、前記開口部 2 には把持部 6 が回動自在に密嵌されるようになっている。この把持部 6 は有蓋円筒状をなしており、その縁部には嵌合部 6 a が内嵌され、この嵌合部 6 a が開口部 2 に着脱自

在に内嵌するようになっている。この嵌合部 6 a には中心からずれた位置に化粧筆 7 が取り付けられてあり、この化粧筆 7 は孔部 4 c に挿抜自在に装着できるようになっている。この化粧筆 7 は第 4 図に示すようにその先端に筆部 7 a が設けられており、この筆部 7 a は化粧筆 7 の内部に進退自在に設けられたロッド 7 b の先端に固定されている。一方、ロッド 7 b の後端には指掛け突起 7 c が設けられている。この指掛け突起 7 c は化粧筆 7 に設けられたスライド孔 7 d 内でスライド可能に保持されている。

化粧料 K の収納状態では第 5 図に示すように、化粧料収容部 4 が窓部 3 を完全に覆い化粧料 K は密閉状態にある。この状態でも化粧料 K は透明な化粧料収容部 4 を介して視認できる。

ここで、化粧料 K を使用する場合には、まず外筒部 1 と把持部 6 とを持ち、相互に逆方向に約 180 度回転させる。すると、第 6 図に示すように化粧料 K は窓部 3 から外部に露出することとなる。この状態で把持部 6 を引き抜き、これと一体にな

った化粧筆 7 を使用する。このように持ち替え等
をすることなく迅速に使用することができる。

＜第 2 実施例＞

第 3 図は第 2 実施例を示し、第 1 実施例における
抜け止め体 8 に、化粧料収容部 4 に装着された
化粧筆 7 をガイドして化粧筆 7 の回動角度を規制
するガイド孔 9 を設けたのもである。

このガイド孔 9 は前記孔部 4 c の移動軌跡に沿
って、約 180 度の回転が可能な形状となってい
る。これにより化粧料 K が窓部 3 から外部に露出
した状態以外では化粧筆 7 を孔部 4 c から引き抜
くことができないようになり、誤操作を防止でき
る。その他の構成及び作用については前記実施
例と同様のため省略する。

＜第 3 実施例＞

第 7 図は第 3 実施例を示し、一端面 4 a と他端
面 4 b との夫々周囲に O リング R を装着するとと
もに、化粧料収容部 4 の縁部に沿ってパッキン P
を設けたものである。この実施例では、気液密性
が良好となるため化粧料の保護を図ることができ

るとともに、海辺での使用も可能となる等の利点がある。

その他の構成及び作用については前記実施例と同様のため省略する。

〔考案の効果〕

本考案によれば、化粧料の収納状態においても外部から化粧料の色を視認でき、販売時の店頭効果にも優れている。

また、使用時には把持部を回して抜く簡単な操作で化粧筆の露出と化粧筆の取り出しとを連続して行うことができ使用感に優れている。

さらに、化粧筆は化粧料収容部以外の部分に収納される構造となっているため、化粧料収納容量を最大限にとることができる。

そして、外部に突起がないため、不用意に化粧料収容部が回転して化粧料が露出してしまいう虞れない。

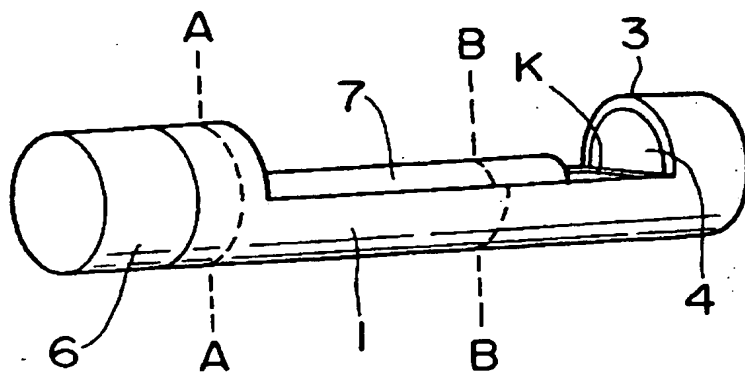
4. 図面の簡単な説明

第1図ないし第7図は本考案の実施例を示し、第1図は第1実施例における全体の斜視図、第2

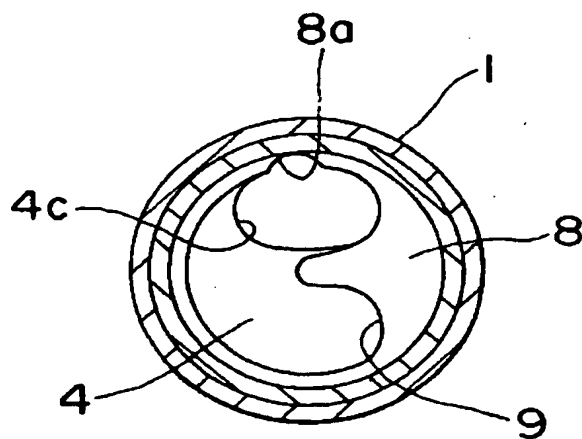
図はその分解斜視図、第3図は第2実施例の要部の断面図であり、その位置を第1図におけるA-A断面と対応させた図、第4図は部分品の側面図、第5図および第6図は第1及び第2実施例の動作説明のための第1図におけるB-B断面図、第7図は第3実施例を示す部分的斜視図、第8図ないし第11図は従来の筒型コンパクト容器を示し、第8図は外筒部の斜視図、第9図は化粧料収容部、第10図および第11図の断面図である。

- | | |
|-------------|------------|
| 1 … 外筒部 | 2 … 開口部 |
| 3 … 窓部 | 4 … 化粧料収容部 |
| 5 … 化粧料収容凹部 | 6 … 把持部 |
| 7 … 化粧筆 | 8 … 抜け止め体 |
| 9 … ガイド孔 | |

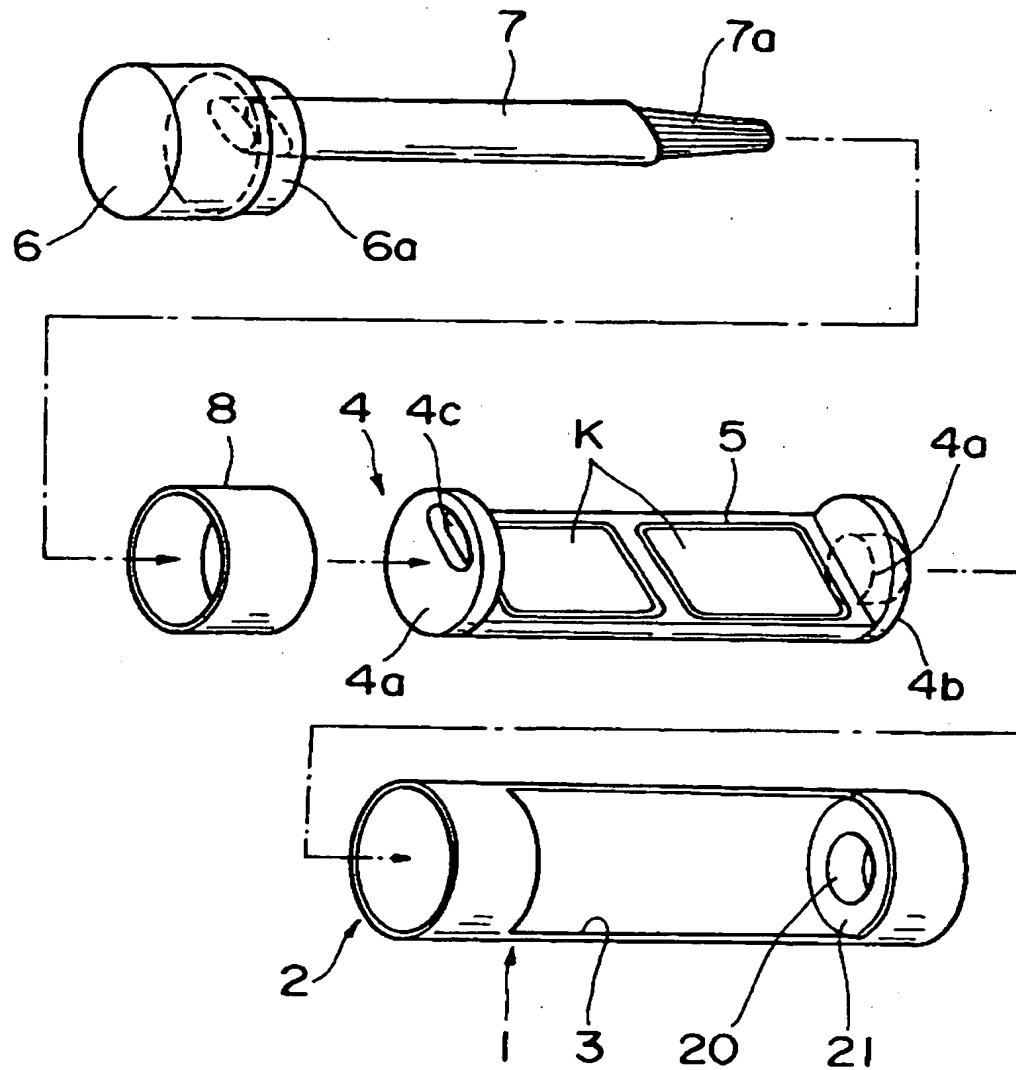
第 1 図



第 3 図



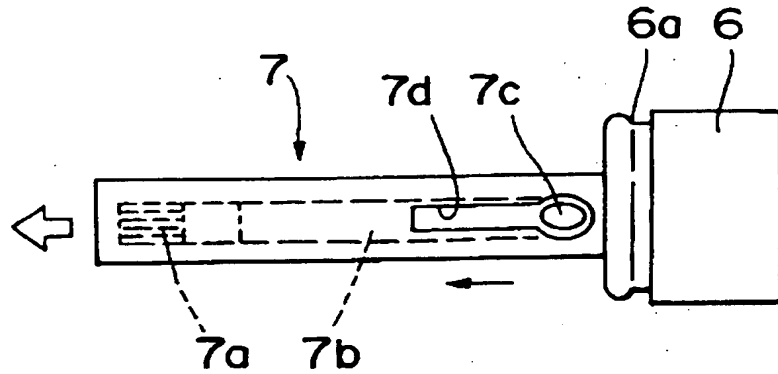
第 2 図



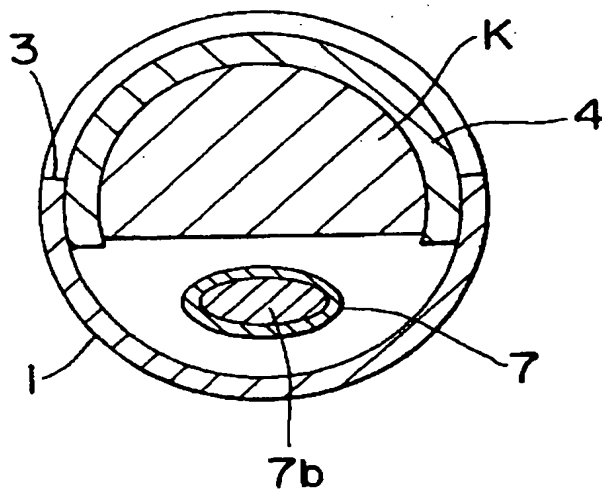
160 実開 1 - 56415

代理人 弁理士 佐藤宗徳 (外 2 名)

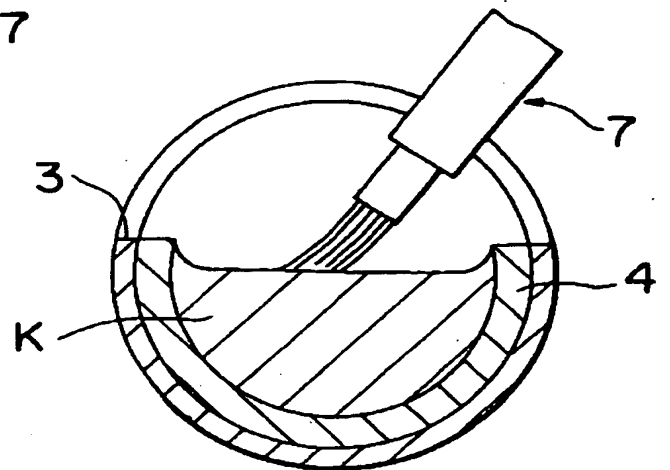
第 4 図



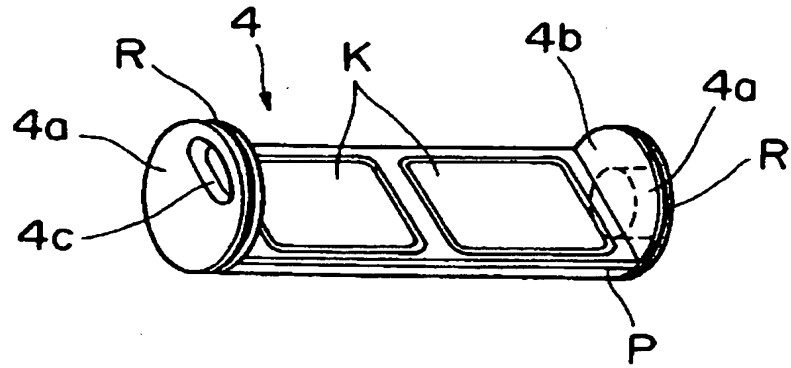
第 5 図



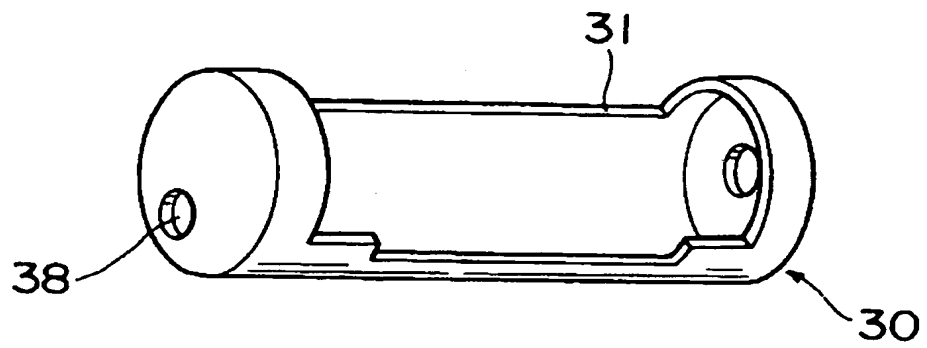
第 6 図



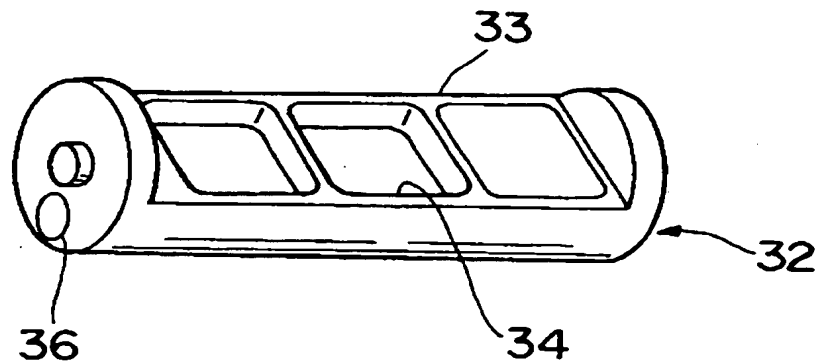
第 7 図



第 8 図



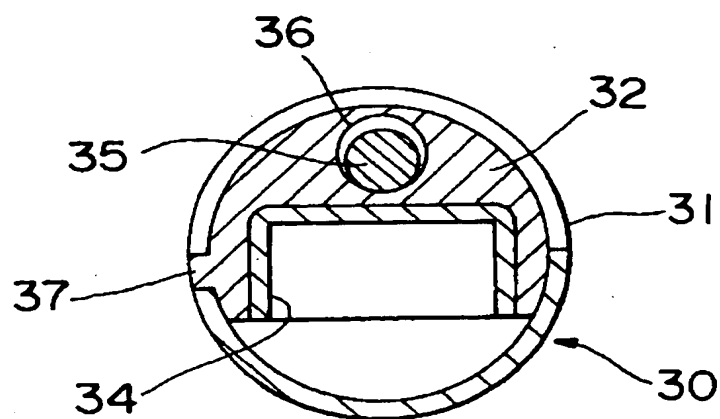
第 9 図



162 実開 4 - 53415

代理人 弁理士 佐藤 宗徳 (外 2 名)

第10図



第11図

